

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で校長のグランドデザインの共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、すべての項目で「十分達成」という成果が出た。 少人数・複式授業においてICT機器を効果的に活用することができたため、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度も複式授業においては「わたり」「ずらし」を組み合わせた学習過程・学習指導法の工夫を継続していく。 人権教室(月1回)の充実を図ったり地域行事と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができている。今後は、児童が自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 学校行事の内容等について見直しをしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より減少し、教師が児童と向き合う時間の確保ができた。来年度も小さな業務改善を積み重ねながら働き方改革を進めていきたい。 令和6年度は山村留學生を迎えることはできなかったが、学校・保護者・地域が一体となり持続可能な取組をすることができた。山村留学においては課題もあるため、今後も地域、保護者、学校で取組の継続・改善の議論を重ねる。

2 学校教育目標	<p>郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成</p> <p>～進んで学習・心と体をきたえて何事にもチャレンジ・自分も友だちも大切に～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①自分の目標に向け、自分の考えを進んで発信し、主体的に学習する児童の育成</p> <p>②生命や健康を大切に、何事にも前向きに挑戦しながら、心身共にたくましく成長する児童の育成</p> <p>③自他や郷土のよさを感じ、相手を思いやり、他者と認め合える児童の育成</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目		重点取組		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫	○「少人数授業で、自分のめあてをもつて進んで学習に取り組むことができている。」と回答した児童82%(14名)以上	・少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・主体的な学びにつなげるICT機器の効果的な活用	A	・「自分のめあてをもつて学習に取り組み、振り返りができる」児童は94%(16名)とやや下がったものの、目標を大きく超えた状態を維持することができた。 ・少人数授業の特性を生かした指導法の研究は、各学年の発達段階に応じて、ICT機器を活用しながら進めることができ、学力向上を図ることができた。	A	・学力については向上が図られている。 ・学校に行くことが楽しいということがすばらしいと思う。 ・家庭学習の時間が少ない傾向があるようだが、学力調査は良好のようである。学校での学習の充実が見えるようだ。 ・子どもたちには、「もっと」を前面に出してほしい。	研究主任 研究副主任
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的な正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「いつでもどこでもだれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した児童82%(14名)以上	・年間9回の人権学習の充実を図る。 ・人権学習において「SOSの出し方教育」の実践を取り入れる。	A	・全職員で分担して人権教室の充実を図ったり、いじめの授業などを取り組んだことで、「いつでも、どこでも、だれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した(88%)。今後も現在の取り組みを継続していく。	A	・「いつでも、どこでも…」という行動が出来ることは、日常自分の心の安定が基礎としてあることだと思う。家庭と学校の連携が重要となってくると思う。 ・全職員で一生懸命取り組んでいただいているので大変素晴らしいと思う。	人権・同和教育学習担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童82%(14名)以上	・児童と学級担任との「おはなしタイム」を確保する等、児童が何でも話せる学級経営の充実を図る。 ・スクールカウンセラーを中心とした全員のカウンセリングと心の授業を行う等、教育相談体制の充実を図る。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・「こまったことやいやなことは、すぐに相談できている。」と回答した児童は88%(15名)、1名が「あまりあてはまらない」、1名が「あてはまらない」と回答している。 ・月一回のこころのアンケートを活用し、気になる児童については担任が相談する機会をつくり、またスクールカウンセラーと面談を行い情報共有を行っている。	A	・今後とも子どもと話す時間の確保を充実させてほしい。 ・全職員で一生懸命取り組んでいただいているので大変素晴らしいと思う。	教育相談担当
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で42分以上の児童60%(11名)以上	・全校剣道を通して、自分の体力づくりに関心を持たせ、基本的な生活習慣の大切さを学ばせるとともに、礼節を重んじる態度を身に付けさせる。 ・運動をしやすい環境を整える(昼休みに体育館を開放する等)。	A	・「授業の他に、運動やスポーツをする時間(登下校で歩く時間も含む)が一日1時間以上ある。」と回答した児童は100%であった。 ・運動をしやすい環境を整えることを通じて、運動習慣の改善や定着化を図ることができた。	A	・毎日の集団下校による歩くことが、体力づくりに役立っている。 ・児童が何にでも挑戦するという意識が出ていると感じた。	体育主任
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○時間外勤務が月平均30時間以内の職員が90%(8人中7人)以上 ○各課や運営のあり方、育友会活動との連携のあり方について見直しを行う。	・業務改善を推進し、職員研修を計画的・効率的に実施する等、年次休暇を取得しやすい環境を整える。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。 ・地域行事(勤務時間外)への職員の参加等については、管理職から保護者・地域の方への理解を呼び掛ける。	A	・児童と向き合う時間確保や年次休暇を取得しやすい環境づくりをするために、放課後(火曜・木曜)の会議や話し合い等の時間を必要最小限にとどめた。 ・定時退勤(金曜)を呼び掛けたことで、職員の退勤時刻が早まった。職員の90%(8人中7人)が時間外勤務月平均が30時間以内であった。 ・職員の地域行事(勤務時間外)への参加については、保護者・地域の方の理解を得ることができ、交代で参加する等の工夫ができた。土日開催の学校行事を育友会主催(地域行事)として実施したことは、授業時数確保と業務改善に繋がった。	A	・児童も先生も学校に行くことが楽しいと思える業務改善を行ってほしい。 ・地域行事への参加が多い学校だと思うが、工夫を行い楽しく参加してほしい。 ・働き方改革の効果が出ていると思う。先生方の家庭への持ち帰りがなければよい。 ・働き方改革をしっかりと実践できている。	教頭 県費事務職員
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%(6人中5名)以上	・特別支援教育に関する研修会を年間2回実施する。 ・教育相談協議会や支援会議等を開催し、関係者間での情報共有を図る。	A	・職員の100%(6人中6人)が特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した。自主研修としてスキルアップ研修にも取り組むことができた。 ・市教委等の関係機関の支援を受けながら、ケース会議を開催した。保護者との共通理解を図りながら、特別支援教育担当を中心として、配慮を要する児童が必要としている支援を行うことができた。	A	・先生達が指導力の向上を目指していると感じる。	教頭 特別支援教育担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校作りの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上	・年7回の山村留学実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方について議論を重ね、家族留学制度の推進や里親の発掘等に取り組む。持続可能な取組となるように改善を推進する。 ・学校からの広報や連絡を幅広く行い、地域人材を確保し活用することで、教育活動の質を高める。	A	・後期は実行委員会を3回実施し、持続可能な山村留学の取組について議論を重ねた。もちつき、門松づくり、鬼火英吉等の山村留学関連の行事は、山村留学希望生の家族を招きながら予定通り実施することができた。 ・山村留学のPR活動を進め、来年度の山村留学希望生との面談を実施することができた。里親方式、家族留学方式の両方で、山村留學生を迎えることができるよう、実行委員会を中心に取組を進めているところである。	A	・東部小の特徴として「山村留学」があるが、関連する行事も多く大変なこと多いと思う。時代に合った活動となるよう工夫し、楽しく参加してほしい。 ・山村留学は東部小存続に必要なことで頑張ってもらいたい。 ・山村留学制度の取り組みは大変だと思う。他校に無い行事にも力を入れていただき感謝している。	教頭 教務

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 全職員で学校教育目標の共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、全項目で「十分達成」という成果が出た。 少人数授業の特性を生かした指導法の研究は、各学年の発達段階に応じてICT機器を活用しながら進めることができ、学力向上を図るとともに、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度は、児童が更に創意工夫をしながら主体的に学習に取り組むことができるよう指導法の工夫を継続していく。 人権学習の充実を図ったり地域行事と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができている。今後は、児童が更に自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 教職員が児童と向き合うための時間確保や年次休暇を取得しやすい環境づくりをするために、放課後の会議等の時間を必要最小限にし土日の行事に交代で参加したりした。来年度も小さなことから業務改善を積み重ね、持続可能な職場環境づくりを進めていきたい。 学校・保護者・地域が一体となり山村留学の短期留学を実施したりPR活動を進めたりしたことで、令和8年度は里親方式での留學生を迎えることができそうである。今後も地域、保護者、学校で持続可能な山村留学の取組として改善・充実を図るために議論を重ねていく。
----------------	---